

## 輪島塗の器、物産展… 被災地に心寄せて

10日から15日の日中法要後には、国宝・書院「鴻之門」でお齋の接待が行われた。聖護院大根と湯葉の炊き合わせや京都ならではの白味噌の汁、全国から進納された米を使った温かいご飯など一汁五菜の精進料理が朱塗りの器に盛り付けられ、1011人が味わった(写真右上)。

山口県萩市・色雲寺門徒の中村喜代美さん(73)は「御正忌報恩講のお齋は初めて。厳選された京の食材などで調理されていて見た目にも美しく、味も京風の薄味で、とてもおいしかった」と笑顔で話した。

朱塗りの器や膳はすべて石川県の伝統工芸・輪島塗。昨年1月の能登半島地震で甚大な被害を受けた輪島塗の工房も少なくない。大阪府池田市の田中和利さん(65)は「料理はもちろん、この器もお齋の『主役』。ぜひ伝統を守り抜いてほしい」と、境内で職員が呼びかけていた能登半島地震災害義援金に懇念を寄せた。

また、境内の特設テントでは能登半島地震、東日本大震災、ハワイ・マウイ島山火事の被災地の復興支援を願い、それぞれの特産品などの販売が行われた(写真右下)。大津市・正源寺坊守の三宮彰子さんは「少しでも被災地の方々のためになれば」と福島県の特産品などを購入していた。

